

会報
87号



函館の歴史的風土を守る会
会報編集部

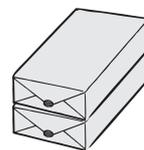
発行所 函館の歴史的風土を守る会
事務局 函館市五稜郭町43-9
五稜郭タワー株式会社内
電話(0138)51-4785
印刷所 祐三和印刷 電話45-0845



第35回函館の町並みを美しくする新春チャリティー・パーティーは2月15日、230人余が参集して五島軒本店で開催された。冒頭の第30回歴風文化賞の贈呈式では、後報の4件と原風景「函館の夜景」が宣言された。本年は実行委員長に内山幸恵氏《榊オオタカ代表》、副実行委員長に渡邊兼一氏《金森商船代表取締役社長》により開催された。懇親会は市教委佐藤文化財課長のご発声、歴風会恒例の対馬会員の日舞で開宴した。北大室内アンサンブルのアトラクション、ビンゴやクイズで楽しみ今後の町並み保存を語り合った。



チャリティーパーティーのビンゴ商品のご提供
ありがとうございました



第34回函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティーへの景品のご提供に御礼申し上げます。

イ飯島商店、NCV(株)ニューメディアセンター函館、(株)オオタカ函館、カーショップ・ニシノ、金森商船(株)、ギャラリー杉本、旧相馬邸、(株)五島軒、五稜郭タワー(株)、(有)三和印刷、シルバーM、(株)青函設備工業、(有)タカオ工業、寺分動一、中島孝内科胃腸科医院、函館トヨペット(株)、函館山ロープウェイ(株)、花かるた、(株)福田海産、北海道コカ・コーラボトリング(株)、POPくらぶ、みかづき工房、(株)元町マリンハウス、やま内科胃腸科医院、リーヴズ・ハコダテ

(歴風会会員) 石井 満 落合 治彦 小山 直子 我満 陽子 今 千尋
齋藤 光子 佐々木 馨 新城 光正 高嶋 協子 対馬 栄子
対馬 誠 林 功 藤井 康夫 吉村富士夫

(順不同・敬称略)

平成24年度 歴風文化賞 (第30回)



原風景 =宣言文=

函館の夜景

函館市

世界三大夜景と称される函館の夜景。函館山山頂から望むと、色とりどりの明かりが宝石のように煌めき、町並みを彩っている。

市街地のまばゆい光りと、漆黒の海が織りなすコントラストも見事であり、夏は津軽海峡の漁り火、冬は夜空から舞い降りる粉雪が夜景に彩りを添えている。

昔から市民に愛され、多くの観光客を魅了する「函館の夜景」は世界一であることをここに宣言する。



保存建築物

太平洋セメント(株)上磯工場「クラブ」

上磯工場長 かみなが としき 神長 俊樹 様

この建物は、大正8年に木造2階建として建てられた洋風の保養施設である。

「クラブ」は社員の研修、保養等の目的で建てられ、会議室、和室の大広間等が配置され、現在も現役で使われている。

外観は玄関前の4本の角柱、縦長窓、明かりとりのある屋根飾り等、創建当時の面影をしっかりと残している。外壁、基礎は石積み風のモルタル塗りである。室内の腰壁、天井付近、階段の各部分には美しく凝ったデザインが施されている。「クラブ」内に入り、しばらくすると時間がゆっくり流れているように感じられ、これが大正の雰囲気なのかという気持ちにさせてくれる。

道南ではこのような大正時代の保養施設は珍しく、更に現在でも創建当時と同じ目的で社員が使っていることに深い意義があると思われる。

創建当時の姿でしっかりと保存されており、大正期における道南の保養施設の歴史を知る上で貴重な建築物である。



正 面



〈太平洋セメント(株)(旧浅野セメント)倶楽部 建築当時の図〉



保存建築物 北斗ビル

てらぶん かんいち
寺分 勘一 様

この建物は、大正10年に鉄筋コンクリートブロック造4階建てで建てられた商業建築物である。

外観は装飾の少ないシンプルなデザインであるが、鮮やかなサーモンピンク色の外壁がよく目立ち、二十間坂のランドマークとなっている。

過去は商店、用品店、北斗ホテルとして利用されていたが、現在は1階が化粧品店、ブティック、2階から4階はアパートとして使われている。

創建時の函館西部地区は大火が多かったことから、主要構造は「中村式鉄筋コンクリートブロック造」という火災に強く施工時に型枠を用いない独特の構造形式を採用している。

店舗、貸室等の間取り、共用部分等、創建当時の姿をしっかりと残しており、大正末期の函館における商業建築の歴史を知る上で貴重な建築物である。

保存建築物 餅子飯島商店

いいじま かずくに
飯島 一國 様

この建物は、病院として使われていた木造2階建ての建築物を、昭和10年代前期に菓子問屋の店舗兼事務所として改築したものである。

旧電車通りに面した店舗の2階部分は全面が銅板で覆われており、函館では数少ない形式である。このような建築物は関東大震災以降に東京で建てられた商店建築がルーツとなっており、「看板建築」と呼ばれている。函館では昭和初期まで大火が多かったことから、飯島商店も防火対策として看板建築の手法を採用している。正面の銅板は2004年の台風で破損したため、新しい銅板に張り替えられているが、今後の経年変化により側面と同じ風格を感じさせる緑青色の姿になると思われる。正面の屋号、看板も昭和10年代のものであり歴史を感じさせる。

店舗兼事務所は改築時と基本的に同じ姿であり、現在でも現役としてしっかりと使われている。

国道沿いの市街地にありながら、外観、店舗、室内とも創建当時の面影を残しており、昭和初期の函館における商店建築の歴史を知る上で貴重な建築物である。



保存建築物 落合治彦邸

おちあい はるひこ
落合 治彦 様

この建物は昭和9年に木造2階建てとして建てられた和洋折衷様式の住宅である。

落合家は1848年来道、大火が多かった箱館から当地に移住、平成年まで5代150年間にわたり木綿商、洋品店を営んだ。北斗市で唯一の店蔵は南西沖地震により損傷したため取り壊されたが、住居部分はしっかりと創建時の姿を残している。

外観は創建当初の板壁、木製の窓周り、軒の持ち送り等の相乗効果で歴史的な重みを感じとることができる。1階は中廊下の両側に6室の和室、2階には洋室1室と2室の和室が配置され、創建時の面影をとどめている。

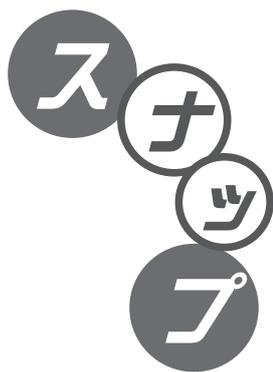
構造材の柱は全てヒノキであり、秋田スギ、ケヤキの一枚板も随所に使用されている。また図面、見積書、大工名、諸費用の支払い先等、克明な建築工事の記録が残っていることも貴重である。

創建当時の姿でしっかりと保存されており、昭和初期における北斗市の商家住宅の歴史を知る上で貴重な建築物である。



歴風文化賞選定基準

1. 建造物自体の貴重性
2. 持ち主が長年保存への努力を続けている
3. 景観への寄与
4. 歴史的性
5. 地域の町並みや社会全般への波及効果が大
きい
6. 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である



前回同様多勢の人々の参加をいただいて



会は佐藤課長のご発声で

歴風文化賞表彰式・チャリティーパーティーの運営と感想

歴風会監事・運営委員 対馬 誠

今年度(2012年度)は内山実行委員長、渡邊副実行委員長を中心に企画され、参加者が230名を超える盛大な表彰式、パーティーとなりました。

歴風文化賞を受賞された4件の建築物は、商業施設、住宅、保養施設と使われた方は様々ですが、受賞者の方からは「今後も大切に使っていきたい」と、建築物に対する深い愛着の言葉を聞くことができました。この歴風文化賞の贈呈が「函館の歴史的風土」の保全に少しでも役に立つことが出来ればと思っています。

原風景は「函館の夜景」を世界一と宣言しました。先日長崎の夜景が世界新3大夜景と報道されましたが、函館の夜景は世界中のどこの都市や町の夜景より綺麗だと思っています。歴風会、そして函館生まれの私としてはこれからも「函館の夜景」を世界一と発信し続けていきたいと思っています。

受賞候補の建築物、団体、原風景等につきましては、多くの推薦を担当までお願い致します。(担当、対馬自宅、電話46-8104)

余興のアトラクションでは「北海道大学水産学部交響楽団」の有志の方々に演奏していただきました。親しみのある曲が多く皆様も楽しめたことと思います。

例年実施している3択クイズはテーブル対抗から個人戦に変更しました。200名以上により開催された、難問の「第1回函館クイズ王」には見事、的場町の「酒本孝子さん」が輝きました。

一昨年から行ったチャリティービンゴはビンゴカードが過去最高の315枚売れ、多くの皆様にもれなく様々な景品をお渡しすることができました。チャリティー商品を提供された企業、個人、関係各位の皆様には深くお礼申し上げます。来年度も楽しい企画を考えたいと思っています。皆様の御協力、ご参加よろしく御願いたします。



正・副実行委員長のごあいさつ



写真展金賞のお二人



対馬会員の日舞



北大室内アンサンブル



函館賛歌の大合唱

運営委員 我満陽子

歴風会主催のチャリティーパーティーで行われるビンゴゲームは、景品の全てが、協賛して下さった皆様のご協力の元、寄贈品で成り立っております。

又、その景品が、一目瞭然ゲームに参加して下さった皆様にわかっていただけるよう、全てオープンにして展示しています。

何が当たるかわからない……ではなく、ご自分の欲しい物が手に入るチャンスがあります。今回は初めて絵画のご提供が数点あり、絵画のお好きな方々が一生懸命お好きな絵を選んでいらっしゃいました。

食器や文房具、洗剤などの日用雑貨、衣類や函館の名産物を含む食料品の他一般ではなかなか手に入らない限定品などもあり、ゲームが始まる前に、提供商品を見定めて歩くのも参加者の楽しみの一つです。

これもひとえに、景品を提供して下さった皆様方のおかげと感謝しております。

本当に、ありがとうございました。

「第35回 函館の町並みを美しくする新春チャリティー・パーティー」

——町並み基金をつくる音楽と語らいの夕べ——

2013年2月15日 6時30分～8時45分 於 五島軒本店

函館の歴史的風土を守る会 会長 佐々木 馨

本日は御多用のところ、またお寒い中、かくも沢山の御臨席を賜りましたことに、心より厚く御礼を申し上げます。有難うございました。前)落合治彦会長の後任を仰せ付けられました北海道教育大学函館校の佐々木 馨でございます。昨年、65才の定年退職を迎えたのを機に会長職をお引き受け致しましたが、北海道教育大学退職と同時に「特任教授」を拝命してしまい、従来同様の勤務をしております。二足のワラジを履いている状態ですが、精一杯、努めて参りますので宜しくお願い致します。

私の持ち時間は3分しかありませんので、今年度の「歴風会」の取り組み事業を二つに絞って御紹介させていただきます。

一つは、3月20日(水)、中央図書館にて6時開演の「五稜郭築城を考える」講演会の開催であります。これは御周知のように、去る12月25日に召天された故フィリッポ・グロード神父(社会福祉法人函館カリタスの園理事長)の生前における五稜郭を世界文化遺産として追加登録したいという夢の実現に向けての開催でございます。2008年に仏本国のヴォーバン式要塞群が十二ヶ所、一括世界遺産に指定されたのを受けての追加登録であります。神父さんの仏本国と函館日仏協会等との人的交流ないし人脈のことを考えると、今回の試みは千載一遇のチャンスともいえます。神父さんの夢を叶えることは、同時に私たち函館市民の宿題といっても過言ではありません。このような夢と宿題に彩られた講演会には元函館市史編纂室長の紺野哲也氏をお呼びして「五稜郭築城秘話」のタイトルでお話しをお願いしております。併せて、教育大学附属中学校教諭の深澤智成氏にも「武田斐三郎の伝記を読む」と題しての報告と函館日仏協会の関口名誉会長にもグローバルな視点でのメッセージもお願いしております。

二つ目の事業は、9月7日～9日の「平成25年度開港5都市景観まちづくり会議 函館大会」についての開催予告であります。バル街を通した食文化とともに「函館野外劇」についても討議を頂き、函館における過去と現在そして未来の三世にわたる文化力を発信していきたいと考えております。ご参集のみなさんの御支援と御鞭撻を切にお願い申し上げまして、御挨拶に代えさせていただきます。



実行委員長あいさつ

株オオタカ代表 内山 幸恵

この度、歴風会主催 第35回「函館の町並みを美しくするチャリティー・パーティー」の実行委員長を賜りました、内山でございます。この度は女性の実行委員長の順だそうで力不足は本日の副実行委員長でございます金森商船社長渡邊様に任zていただいております。

まずもって、この度の歴風文化賞を受賞された皆様おめでとうございます。

そして、函館の財産でございます景観を大切に守っていただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

私共も平成17年に団体として“冬フェスティバルチャリティー茶会”を表彰していただきました事が嬉しい励みになった事を記憶しています。

そして本年も28回目を2月2日・3日に無事盛会裏に終えることができました。

函館はペリーの来航以来の国際交易の街として近代文化の発祥と歴史ある街並が美しく残っております。

佐々木会長が「原風景」として“世界一”と宣言致しました夜景は、函館市民の自慢であります。長崎の夜景が“3大夜景”と発表された日、偶然にも友人と長崎におりました。

花街“丸山”のふもとにあるロープウエーで“いなさ山”に登り確認して参りました。

確かに48万都市の光の量と港に浮かぶ光は、量こそ多く美しいのですが、改めて確信致しました函館夜景の美しさを、街並のデザインと海の稜線のしなやかな輝きは、どの夜景とも比べようもなく繊細で美しいと私も世界一を宣言させていただきます。

また、昨年は表千家流茶道の全国大会が晩秋の函館で開催され、函館山、高龍寺、函館八幡宮、奉行所、湯川地区の若松・竹葉を会場に茶席を、昼食は函館ビヤホール、五島軒とお家元始め全国会員と共に巡りました。

ご参加の皆様の賞賛の声と共に改めて一市民として、函館の景観の美しさと歴史の重さを感じた次第です。

2015年新幹線開業で街と街がより身近となってまいります。今後成熟した街として「観光」を「街並み」を育て、後世に伝えていくことを運営委員の皆様始め本日お集まりの皆様と共に守り続けていただきたいと思います。

とりとめのない話になってしまいましたが、函館への熱き想いと共に、本日お集まりの皆様のご健康とご活躍をご祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。

受賞者代表謝辞

太平洋セメント(株)

上磯工場長 神長俊樹様

受賞者を代表し、一言ご挨拶させていただきます。

今回は荣誉ある歴風文化賞を頂き、誠に有難うございます。

クラブは大正8年、上磯工場の来客の接待、従業員の教育・保養のため、創建されました。当時としては珍しい洋風建築、2階建ての建物です。内部の改装・修繕は行っていますが、外壁は創建当時のままとっています。

また、今尚、現役として、使用されています。建物は生き物と申しますが、創建後、愛着を持って使われ続けたことが、長持ちの一因ではないかと考えております。

さて、私共、太平洋セメント 上磯工場は明治23年より約120年、操業を続けております。日本で操業しているセメント工場としては最も古い歴史を持つ工場でございます。日進月歩の技術革新の中、工場の機械設備が変わり、会社の名前が歴史の荒波の中、北海道セメント、浅野セメント、日本セメント、太平洋セメントと変わりましたが、その殆どをクラブは変わらない姿で見守り続けています。今後も工場の発展を末永く、見守り続けていけるよう、維持管理を行っていきたくと考えております。

最後になりますが、函館及び周辺の歴史を深く掘り下げ続ける歴風会の皆様のご健康と今後のご活躍を祈念し、謝辞とさせていただきます。



副実行委員長あいさつ

金森商船(株) 代表取締役社長 渡邊兼一



ただいまご紹介にあずかりました、副実行委員長を拝命した渡邊兼一でございます。「第35回函館の街並みを美しくする」新春チャリティーパーティーにこのように多数のご出席を賜り、かくも盛大に開催することが出来ました事を心より厚く御礼申し上げます。開港から154年余り、函館は外国文化の流入と、異国情緒豊かな街並みが形成され、時には函館大火の大災害に見舞われながらも、独特の坂道道路や建築物、歴史的文化が現在も数多く残されております。

手前どもの赤レンガ倉庫ですが、昭和63年に市が指定した「歴史的景観地域の伝統的建造物群保存地区」に指定され、赤レンガの外観を保全しつつ、ショッピングモールとして函館ヒストリープラザを開業しました。お蔭様で今では数多くの市民観光客がお越しにいらしており、今年開業25周年を迎えることが出来ました。

函館には倉庫群だけではなく、西部地域全体に歴史的建造物や景観が数多く残されており、この函館らしい景観風土が年間450万人に及ぶ国内外の観光者の憧れとなっております。

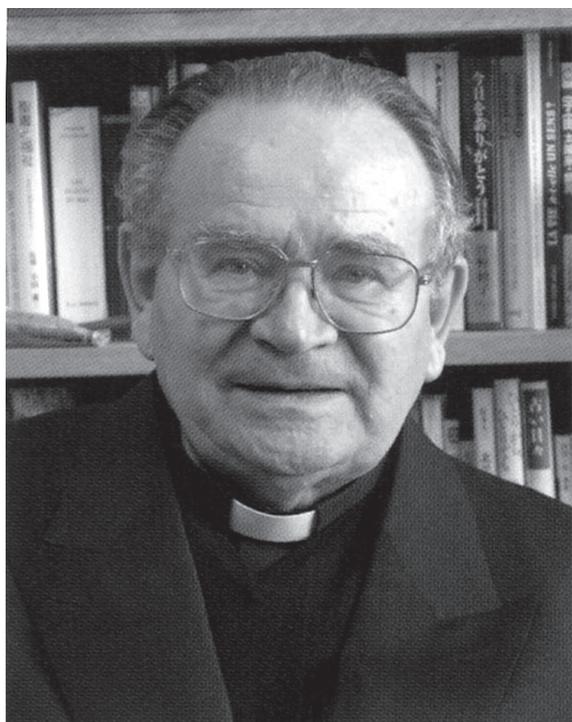
これら街並みすべては、歴史と共に育まれてきました。それは先人先輩の一人一人の英知と、たゆまぬ努力の結晶にあり、これこそ後世の私たちの誇りでございます。本日お集まりの皆様とともに、この街並み、風土、文化を、是非とも後世へ引継ぎ、継承していく事が何よりの責務と痛感する次第でございます。

是非とも、今後も歴風会の活動取り組みにご理解御協力を賜りたく、この場をお借りしましてお願い申し上げます。

歴風会の皆様のご発展と本日お集まりの皆様のご健勝を心からご祈念いたしまして、杯を上げさせていただきます。それでは新春ですので「おめでとうございます」で杯をあげたいと思います。ご唱和お願いいたします。

それでは、おめでとうございます！ 本日は誠にありがとうございました。

フィリッポ・グロード神父 逝く！



故 フィリッポ・グロード神父

略 歴

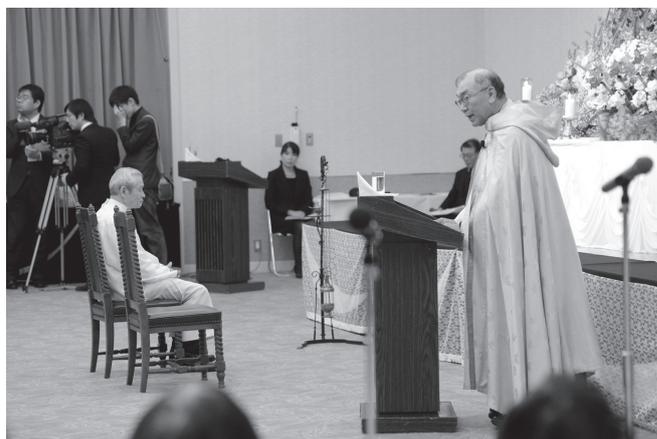
昭和2年6月7日	フランス ヴァンデー県 ロッチェセヴィール村にて生まれる
昭和28年12月	パリ外国宣教会 大神学校卒業
昭和29年6月	パリ外国宣教会宣教師 司祭
昭和31年	カトリック八雲教会主任司祭
昭和37年4月	カトリック元町教会(函館)
～昭和52年3月	主任司祭
昭和39年3月	社会福祉法人函館カトリック
～昭和52年3月	社会福祉協会(少年の家)理事長
昭和52年5月	特別養護老人ホーム旭ヶ岡の家
平成15年9月	施設長
平成8年4月	高齢者総合施設旭ヶ岡の家
～平成15年11月	総合施設長
平成15年12月	社会福祉法人
～現在	函館カリタスの園 理事長
平成24年12月25日	85歳で帰天

去年12月25日、クリスマスにグロード神父が85才で召天され、氏の功績を知る多勢の市民が永遠の別を惜しんだ。氏と「歴風会」のかかわりを知る人も少なくなったが、本会当初からいただいた恩情には計り知れないものがある。30周年記念式典には、体調不良のところ、わざわざメッセージを寄せられた。

その中で、「歴風30周年記念事業として、五稜郭を世界遺産として登録する運動」を起すことを提案された。会として、これを重くとめ、グロード神父と面談したり、日仏教会と連携をとって来たが、神父は他界された。



多勢の人々が参列した会場



司式の 山内 実神父



関口昭平氏



祭壇から微笑かける遺影

今年2月5日、カリタスの園主催で神父を偲ぶ会が荘厳裡に行われ、参加者は700名を越えた。

日仏教会の関口昭平氏(同名誉会長)と友人代表のクリスチャン・ポラック氏は弔辞でグロード神父が「五稜郭の世界遺産」登録を強く希望していた事を述べられた。



クリスチャン・ポラック氏

本年3月20日、「歴風会」では、元函館市史編纂室長の紺野哲也氏と深澤智成(当会運営委員)を講師に「五稜郭の築城を考える」講演会を開催し、グロード神父を偲び、世界遺産登録実現への第一を踏み出した。

当日は降雪と夜間開催と悪条件の中で約100人余の市民が参加された。



別れを惜しんで献花は続いた



熱弁ふるう紺野講師



報告する深澤会員

第10回 ふるさと写真展開催



函館の歴史的風土を守る会
小・中学生による「ふるさと写真コンクール」

【家族もいっしょに受賞者記念写真】

運営委員 新城 光 正

今年のふるさと写真展は第10回目、つまり10年間続いて
節目の開催でした。今回は108点の応募があり、応募した
どの作品もレベルが高く審査に苦労しました。入賞者は、
小・中学生から見た大人にない視点からの作品が受賞を受
けています。

今回は初めて応募した方が金賞や特別賞を受賞しており、
又新たに応募した学校も多く、北美原小学校、白百合学園、
函館聾学校等幅広い応募があったことは、関係者一同大変
うれしく感じています。

今回が10回目の節目の開催であり『金賞』『歴風文化賞』の
受賞者を歴風会主催の“新春チャリティー・パーティー”に
招待しました。会場で受賞者の紹介があり230名の出席者
から万来の拍手を受けていました。



【会場の風景】



【表彰式の模様】



【金賞】林 美咲さん



【歴風文化賞】
今井 小雪さん

《入賞者氏名》(敬称略)

- | | | | |
|--------|-----------------|------------------|------------------|
| ▶金賞 | 林 美咲 (教大附属中1年) | 〔鏡の中の函館〕 | |
| ▶歴風文化賞 | 今井 小雪 (中の沢小6年) | 〔神聖の白銀〕 | |
| ▶企業局長賞 | 林 美咲 (教大附属中1年) | 〔三重奏〕 | |
| ▶銀賞 | 開沼 紗彩 (大川中1年) | 笠島 彩那 (五稜中1年) | 松山 泰斗 (ラ・サール中1年) |
| ▶銅賞 | 窪田 頼人 (昭和小1年) | 窪田 みゆ (昭和小3年) | 田中 宏和 (北昭和小4年) |
| | 畠山 駿一 (北美原小5年) | 笠島 彩那 (五稜中1年) | 加藤 璃沙 (函館聾中2年) |
| | 佐藤 響 (ラ・サール中3年) | | |
| ▶佳作 | 菅 真優羽 (本通小1年) | 笠原恵都子 (八幡小3年) | 坂本 裕貴 (青柳小4年) |
| | 砂原由妃乃 (中の沢小4年) | 吉本 有秀 (三育小5年) | 窪田 海人 (昭和小6年) |
| | 水澤 健太 (高盛小6年) | 島倉 実里 (中の沢小6年) | 板谷 美優 (亀田小6年) |
| | 菊池 真央 (教大附属中1年) | 後藤 夏純 (教大附属中1年) | 倉内明歌音 (北中2年) |
| | 木村 朱 (亀田中2年) | 小野寺 遼 (白百合学園中3年) | |

作品応募総数108点(小学生:63点、中学生45点) 銀賞3点(通常5点)、佳作14点(通常10点)としました。

特別寄稿

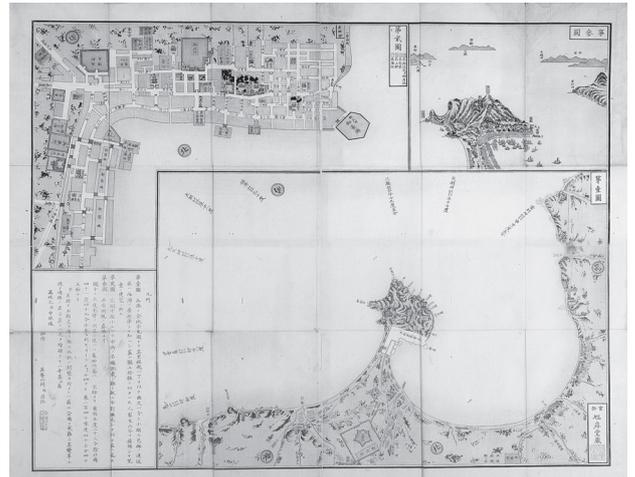
函館の歴史に残る仏教と基督教の共生

(財)北海道国際交流センター 代表理事 山崎文雄氏

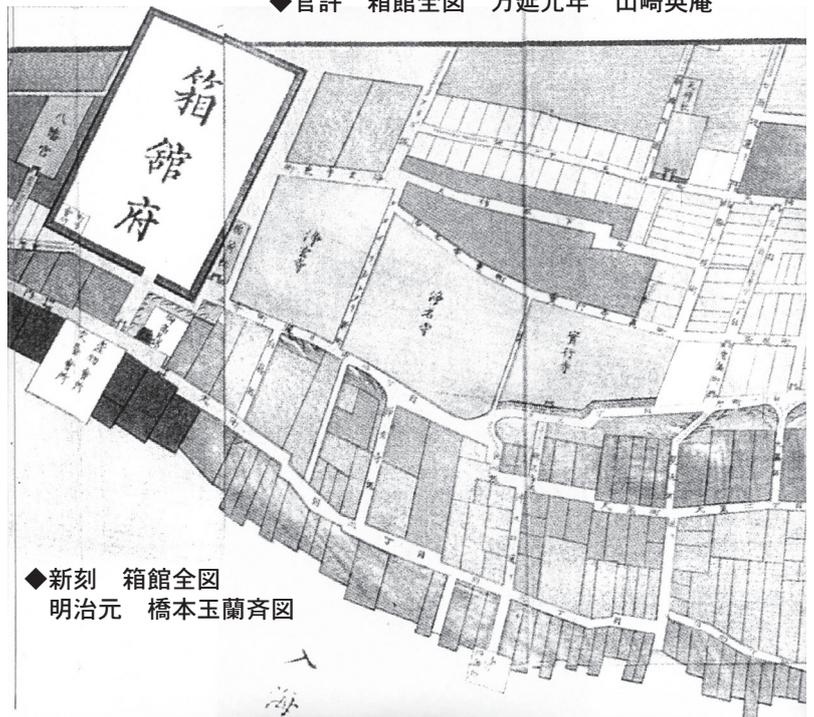


縄文人は天体の動きや、生きものの中に働く未知なる力に思い寄せていたに違いない。この思いは人類に共通するものと考えられるが、その後の人類数千年の歴史の中で様々な宗教が生まれてきた。日本では土着の神道の中に、仏教、基督教が入り、現在ではこれらが枝分かれしてできた教団、教派が無数に存在している。これらのどの宗教も自然や生きものに対する考え方や、人とは何か、どうあるべきかを示唆し、愛や忍耐、励まし、慈悲、慈愛を説いて心の安らぎを信者に与えているに違いない。しかし残念ながら、宗教間で争いがあり、一部で殺戮を繰り返しているのも事実である。人の感性に関わる宗教の共生は世界平和の要であろう。その本質から考えるなら、如何に宗派が多くあろうとも、お互いに争うことなく共生のための努力は怠ってはならないと思うのである。これなくして世界の平和など語ることはできない。

函館の歴史には、基督教と仏教が、共生できることを実証しためずらしい史実がある。これは諸外国に発信できる地域の誇るべき価値と云えます。1854年江戸幕府が254年に亘る鎖国政策を解き、函館と下田の開港を決定した時、主要国は競って函館に領事館を開設したが、1859年ロシア領事館が日蓮宗実行寺におかれ、基督教禁止令があったにも関わらず、境内にロシア正教の祭祀堂を建立した。また同じ年に日仏通商条約が結ばれてフランス総領事が江戸に派遣されたが、通訳として同行した司祭メルメ・カシオンが函館に派遣され、浄土宗称名寺境内に聖堂を持つ司祭館を建立したのである。お寺の境内に基督教会の建立を許した当時の奉行の決断、これを受けて、檀家の信者さんたちが何の争いも起こさず、互いに信仰を守り祭事を行った歴史は子供たちに語り継ぐ必要があるだろう。古代も現在も天体を動かし、生きものを生かしている力は同じである。宗教で争う正当な理由は全くない。特に、中東の利権争いが宗教戦争におきかえられている現在、函館の実行寺と称名寺に残されている歴史は世界史的な深い意味を持つと思うのである。



◆官許 箱館全図 万延元年 山崎英庵



◆新刻 箱館全図 明治元 橋本玉蘭齋図

開港5都市景観まちづくり会議 函館大会開催

平成25年9月7日(土)・8日(日)・9日(月)

◆会議の目的

安政5年(1858)開港された函館・新潟・横浜・神戸・長崎の五都市の市民が景観、歴史、文化、環境などを大切に守り、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力のあるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港五都市のまちづくりの推進に資する。

◆会議の沿革

平成5年(1993)8月に、第1回神戸大会が開催され、以後順次五都市で開催されてきた。函館は平成9年(1997)に第4回、平成14年(2002)に第9回、平成19年(2008)に第14回の大会を終え、平成25年(2013)9月7日～9日、4巡目の第19回大会を迎える。

◆第19回函館大会の概要

函館市を含む20サークルで実行委員会を結成し、実行委員長に佐々木(歴風会会長)副実行委員長に吉村(当会副会長)他3名が就任した。

大筋のスケジュールは

9月7日	全体会議とウェルカムパーティー
" 8日	分科会及びオプションツアー
" 9日	各都市代表者会議 次期開催地へ大会旗引継ぎ

等を企画しているが、その詳細については今後の実行委員会による。

会 務 日 誌

H25. 2. 12~17

第10回 小中学生によるふるさと写真コンクール
函館駅「イカすホール」

H25. 2. 17

同表彰式

H25. 2. 25

第9回運営委員会 函工柏ヶ丘ホール

H25. 3. 4

「屋外広告物が魅力的な都市景観をつくる」

講師 小篠孝生 函館市主催の、講演会に会員参加

H25. 3. 18

第35回チャリティーパーティー反省会。

H25. 3. 20

歴風会主催「五稜郭の築城を考える」講演会

講師 紺野哲也氏、深澤智成氏

於 市立函館中央図書館

*** 編 集 後 記 ***

◇第35回函館の街並みを美しくする新春チャリティー・パーティーの参加者は奇しくも昨年と同数の233人。御多忙中敢えて正・副実行委員長をお引受け下さった御両氏、ピンゴ景品等を御寄贈いただいた皆様に、会員一同衷心より御礼申し上げます。

◇第10回小・中学生によるふるさと写真展は、新城・

林・我満会員に負う所大。今回は函館聾学校よりの応募もあり、金賞入賞者2名を、チャリティーパーティーにご招待しました。

◇9月7日～9日開催される「開港五都市景観まちづくり会議函館大会」は当会佐々木会長と吉村副会長が大会実行委員長と副実行委員長となった。会員一丸となり盛りあげたい。

◇本号の写真は、「旭ヶ岡の家」・上田氏(一般)・新城・対馬・林会員によりました。(文責 落合治彦)